

# APNIC (Asia Pacific Network Information Center)

## 1. 概要

インターネットの資源（インターネットプロトコルアドレス、AS番号など）は世界的に認識された独特の番号であることが要求されるため、IANA (Internet Assigned Numbers Authority) を頂点としたレジストリーと呼ばれる組織がその管理をしている。APNICはIANAの下にある3つの地域レジストリーの1つで、アジア太平洋地域を担当している。APNICの下にはConfederationと呼ばれるISPのグループと個々のISPがAPNICの会員という形で位置している。地域レジストリーはAPNICのほかにヨーロッパを担当するRIPE NCCと南北アメリカとアフリカなどを担当するARINがある。IANAを含め、これらのレジストリーはそれにつながる会員の支援によって成り立っており、それぞれの会員の立場や意志が尊重されるしくみになっている。

## 2. 歴史的背景

研究教育機関で開発、発展したインターネットはめざましい成長を遂げ、1つの組織で資源管理することが難しくなってきた。そのため、RFC1366の中で地域レジストリーに資源管理を任せ、階層構造を採る新しい方法が紹介された。1992年4月にヨーロッパでRIPE NCCが発足する一方、アジア太平洋地域でも1992年1月にAPCCIRN (Asia Pacific Coordination Committee for Intercontinental Research Networks) ミーティングで、地域レジストリーの設立が議論された。後にAPNG (Asia Pacific Networking Group) と名を改めたAPCCIRNは、現在でもアジア太平洋地域におけるインターネットのリーダー的役割を努めており、多くの専門家によってさまざまな活動が行われている。

APNICはこのようにして1993年9月にパイロットプロジェクトとして発足し、1994年4月には地域レジストリーとしてIANAから正式にインターネット資源の権限委譲を受けた。ほかのインターネット関連組織と同じく、APNICもはじめは寄付による資金とボランティアの努力によって運営されていたが、アジア太平洋地区のインターネットの成長、ほかの地域との協力関係の必要性を鑑み、1996年4月30日にセイシェル共和国にて合法的に設立された。これにより、同年6月1日よりAPNICの運営を会員制とし、APNICからの資源提供を受けたい組織は会員となって会費を取めるという方法がとられるようになった。現在までAPNICはさまざまな理由により、たった3人のフルタイムスタッフによってなんとか乗り切ってきた。しかし、非営利団体として国際機関であるAPNICが日本に存在することは容易ではなく、1997年6月にマレーシアのクアラルンプールで開かれたAPNICの年時会議で、本部をオーストラリアのブリスベンに移すことが提案され、可決された。また、高橋徹がエグゼクティブカウンセルに選ばれた。

## 3. APNICの業務と活動内容

APNICはインターネット資源の割り当て、その情報データベースの管理、逆引きドメイン名の委任、情報提供をその主要業務としている。APNICはISO3166で規定された国々のトップレベルドメイン名については、基本的に関与しない姿勢をとっているが、質問を受ければ、その国のドメイン名管理者の情報は提供している。最近ではスパムと呼ばれる一方的に送り付ける広告、メール爆弾、システムへの不法侵入などの苦情がAPNICに多く寄せられている。それは発信元をARINのデータベースで引くと、

図1 APNICのホームページ <http://www.apnic.net/>

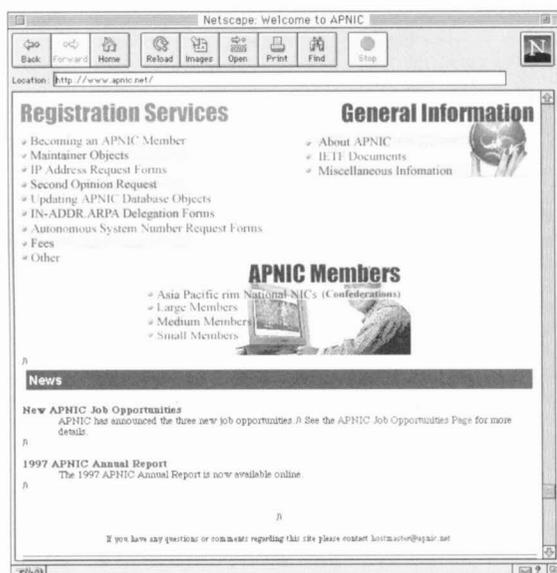
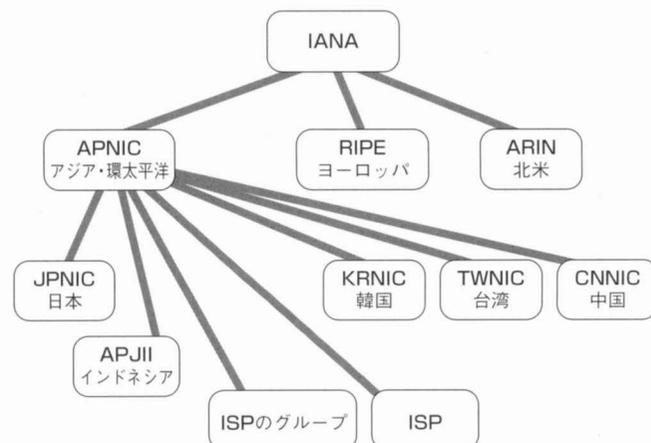
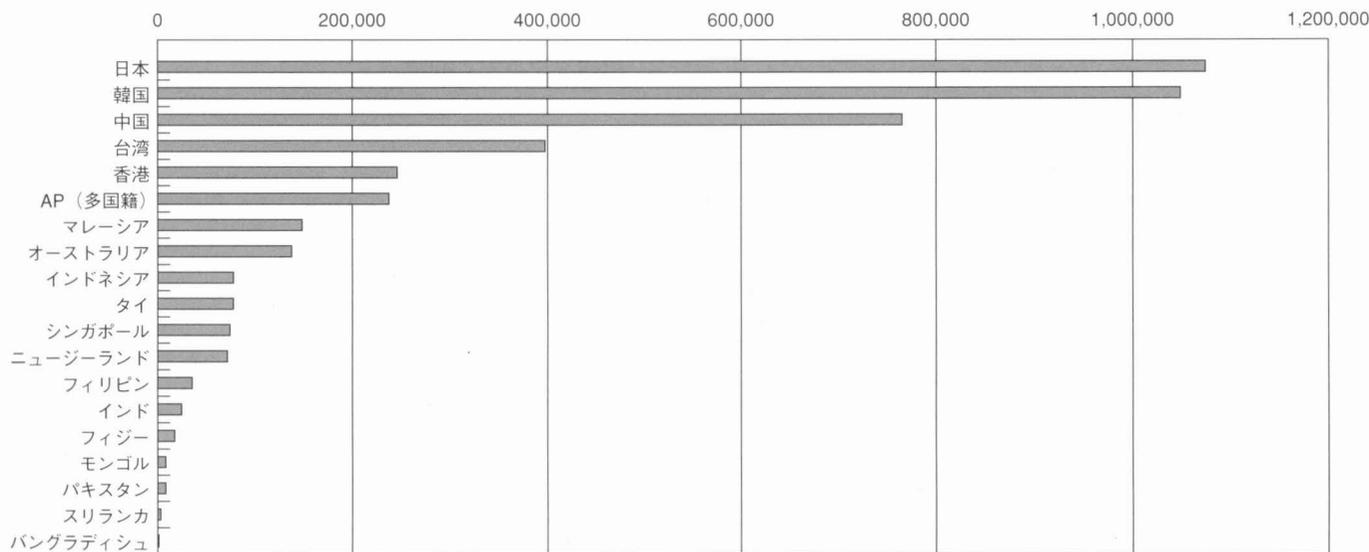


図2 各NICの関係



資料8-1-1 IPアドレスの国別割り当て数 (1997年1年間)



出所 APNIC資料を元に作成

202/7、210/7、61/8のアドレスは全てAPNICに属すると表示されること、たとえAPNICのデータベースを検索しても、そのオブジェクトに出てくる全てのメールアドレスに苦情を送る傾向があるため、データベース管理をしている我々のところに毎日読みきれないほどの数のメールがくるため、その処理にも頭を悩ませている。その他、年1回開かれるAPRICOT (Asia Pacific Regional Internet Conference on Operational Technologies) というアジア太平洋地域の人たちのための教育用のインターネットコンファレンスも後援をしており、「CERT (Computer Emergency Response Team) をAPNICの会員のために設置してはどうか」という声も出ている。

ットコミュニティの推奨する技術を持ったISPが増えてくると期待される。

今年の初めにAPNICの設立時から力を尽くしてきたディレクタージェネラルのDavid R Conradが一応APNICの安定した運営を見届けたとして辞意を表明した。ちょうど本部が移るこの時期にディレクタージェネラルを含め、ほとんどのスタッフが変わり、新生APNICが誕生する。

(チョング・フォング・芳子・APNICホストマスター)

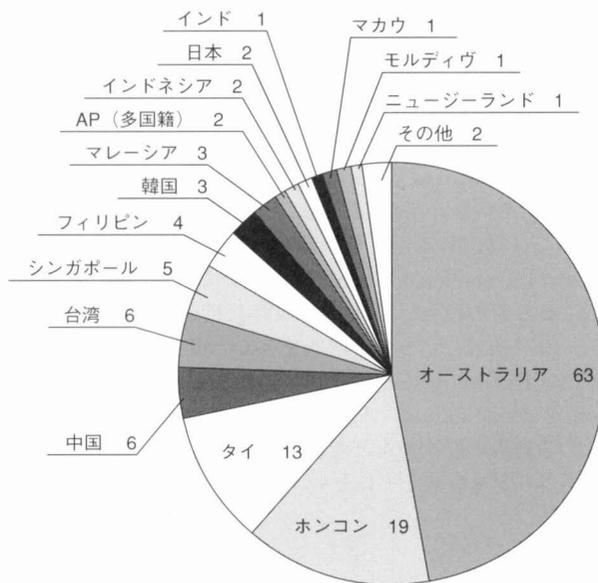
#### 4. APNICの将来の展望

現在APNICの本部は臨海副都心にあるテレコムセンターに置かれているが、オーストラリアのブリスベンへの移転の準備も着々と進んでいる。本部が移ればホストマスターを含め、技術スタッフの数も増え、サービスも向上していくものと期待される。今までスタッフ不足のため着手できなかったツールの開発(データベース、チケットシステム、自動依頼書チェッカーなど)も近々完成し、より早く、より確かな情報が得られるようになる。

このところアジア経済は低迷しており、その影響からかAPNICの会員の総数が去年からあまり増えてはいない。会員契約の更新をしなかったり、会員の種別をLargeやMediumからSmallに落とした所も少なくなかった。しかしこれは、雨後の竹の子のように増えたISPが今、生き残りをかけて努力をしているということかもしれない。

新しいAPNICスタッフは、これからアジア太平洋地域のISPの教育にも力を入れることにしている。それにより、インターネ

資料8-1-2 AS番号の割り当て回数 (97年度)



出所 APNIC資料を元に作成



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)